

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション
所在地	(〒 940 - 0098) 新潟県長岡市信濃 2 - 6 - 18		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2019 年 9 月 10 日	従業者等自己評価 実施人数	(22) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2020 年 2 月 5 日	出席人数 (合計)	(30) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (10 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (5 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (2 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (2 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (9 人) <input type="checkbox"/> その他 (0 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	(平成 31 年度に向けて) 前回の改善計画	(平成 31 年度) 実施した具体的な取組	(平成 31 年度) 進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所年間研修計画及び個別研修計画について、計画段階から研修による効果が良好に得られるよう管理者及び計画作成担当者等が支援していく。それにより職員の知識技術量の平均化、資質向上に努める。また習得したものを他職員に伝達する機会を作る。 ・推進会議に参加したことが無い職員を優先に参加させることで、地域における定期随時サービスの必要性等の意識付けを行っていく。 ・カンファレンスを定期的を開催できるよう、年間計画を作成していく。 ・安全運転や防犯、個人情報管理等についての知識や情報を定期的に認識するための研修の機会を設ける。それにより安全防犯に対する意識付けを継続的に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画を立案する際に法令順守必須の研修項目の他は、職員の聞き取りにより実践的な内容にした。また、幾つかの研修を交流研修とし、地域の方と「共に学ぶ」機会を設けた。 ・推進会議を年2回としたため、毎月会報を作成し事業所報告とした。 ・「テレマテイクス」サービスを継続し、毎月の集計と評価を職員に発信し、注意喚起を促し、安全運転の意識付けを行った。また、新しいタイヤ交換のやり方の研修を実施。 ・個人情報については、適宜保管場所の確認を行い個人情報の持ち出し等制限は徹底している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度計画、個別研修計画に沿って研修をおこなった。具体的に実践に活かせる研修を行った事により当日の参加人数も増え効果があった。 ・推進会議は計画作成責任者のみの参加となるが、新しい職員の参加はみられた。 ・定期的または状態変化に応じ担当者会議、計画作成責任者間での話し合いは行われているが、カンファレンス形式を行うことができていない。計画的に実施することが必要である。 ・安全運転及び防犯の意識付けはできているが、研修は継続していく必要がある。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期随時サービスの制度知識や情報等について定期的に伝達していく機会を設け、職員の知識向上を目指す。そして、ご利用者やご家族からの相談や自立支援に向けた提案を行えるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画通りに研修は実施している。職員の個々の研修の機会の確保、情報提供を継続していく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者に対してはフェニックスネットの同意を勧め、利用者の変化等に即対応できるよう努めていく。またフェニックスネットでの情報共有だけでなく、担当者会議やカンファレンスを開催し、 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットに連携している事業所とは迅速に情報共有ができるようになり、利用者の状況変化に早期対応できるようになっている。今後もフェニックスネット

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28~32)</p>	<p>コミュニケーションでの連携も強めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌の定期発行により、一般市民への情報発信を継続していく。 ・町内等の小単位での集まりの場に参加し、介護や福祉について自分自身のこととして考えて頂けるような取り組みを行っていく。 	<p>スネットの中で進めていく事にした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に対しての情報発信をおこなっている。 ・推進会議内では委員の方より専門職の立場から情報提供をして頂く時間を作り、まちづくりに役立つ情報提供ができるようにすすめた。 ・広報「まもーる通信」を継続して発行。 ・高齢者センター全体の防災訓練時に、水害対策として町内の方々と具体的に避難訓練を行った。 ・地域の方より昨年行った「定期巡回サービス」について話をしてもらいたいとの依頼があり5月に行った。 ・シルバー人材の方を対象に訪問介護について講義した。 	<p>トに連携していない他機関との連携方法を検討していく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民への情報発信は継続していく必要がある。 ・引き続き小単位での集まりの場で、まちづくりの参画を継続していく。 ・推進会議の中でそれぞれの専門職から情報発信して頂く場を設けて共通課題として進めていく。
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33~34)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・的確に課題を導き出し、多職種連携した支援の提供を図る。 <p>新規利用者に対しフェニックスネットの同意を勧め、タブレット活用をさらに強化し、情報共有及び連携を図る事で、「ご本人が望む生活」が維持継続できる様に支援する。そのために、全職員が同じレベルでの対応ができるよう、個々の理解と習得力を養うとともに互いに切磋琢磨する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当毎でのチームカンファレンスを継続することで、利用者の状況把握とケア 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットで多職種との連携をリアルタイム且つ、効率よく活用できるようにシステムを考え提案し、4月より実施した。 ・毎月少人数でのチームカンファレンスを行い、課題把握の共有に努めた。 ・広報誌「まも〜る通信」を定期的に発行した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ご本人が望む生活」ができるようフェニックスネットの活用だけでなく、チームカンファレンス等で課題を導き出し、早期対応していく必要がある。 <p>研修等でアセスメント力の向上を継続的に図っていく必要がある。</p>

	<p>の見直し・意識統一を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌『まも～る通信』定期発行をする。 ・安心して在宅での暮らしが継続できる様なサービス提供に向け、利用者満足度調査を実施する。 		
--	---	--	--

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		(平成 31 年度) 評価結果	(令和 2 年度に向けて) 改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		<ul style="list-style-type: none"> ・事業所年間計画及び個別研修計画に沿っておおむね計画通りにすすめることができた。 ・推進会議の参加において一般職員の参加が出来なかったが内容については参加できなかった職員には伝達している。 ・サービス担当者会議以外に個別カンファレンスを開催することができなかった。 ・安全運転、個人情報管理、防犯については対策、意識付けを継続的におこなった。軽微な車両事故は数件発生しており、今後も事故予防の知識や技術の習得や意識付けが研修等を通し必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所年間研修計画及び個別年間計画の中で包括ケアシステムの意義やそれに関連した制度の理解を周知させていく。その研修は年度の初めに行うこととする。 ・推進会議の回数が少ない分、事業所の運営報告を「会報」として今後も発行していく。 ・推進会議の内容、意義を全職員に理解してもらうための機会を設け職員の力量の標準化を図ることとする。確実な伝達方法としては少人数のチームミーティングの際に計画担当責任者が指導していくこととする。 ・防災訓練を計画的に実行していく。 ・防犯について具体的に取り組んでいく。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期随時サービスの制度知識は他部署からの異動してきたヘルパーには配属時に適宜説明は行った。またフォーマル、インフォーマルなサービス等の把握と説明能力に関しては職員個々の知識のばらつきがみられ、理解度に合わせたフォローが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットは一般の方にも浸透してきている。それを踏まえた上で全職員が適切に活用できるよう他機関との連携をロールプレイ等で学習する機会を年間の中で組み立てて実施していく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22)	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネット連携事業者とは迅速に情報共有できている。それ以外の事業所とは電話等で連携し情報共有してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェニックスネットの活用はすでに一定の評価、成果ができてはいるが、情報の中からより早く課題を導く視点が必要なた

	～27)	またサービス担当者会議等において情報や課題の共有をはかり、各種機関と連携し必要に応じた対応に努めてきた。	め職員ひとりひとりが積極的な提案をするように努めていく。事業所との連携は日々情報共有できているといえるが、課題によっては各種機関との連携によってより良い対応が可能であり、いっそうの強化を図っていく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報誌「まも～る通信」を発行し、地域に対して情報発信を行うことができた。 ・ 高齢者センターでの防災訓練に地元の方に参加していただき、その際に専門職の方から水害についての防災についての話を伺う機会を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報誌の定期発行を継続し一般市民への情報発信をしていく。 ・ 町内等の小単位での集まりに参加する、あるいは高齢者センター内での行事や研修等に地域の方から参加していただき、介護や福祉について考えて頂けるよう取り組んでいく。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)		<ul style="list-style-type: none"> ・ フェニックスネットの活用により在宅生活が継続できるように迅速に対応に支援はできていたが、アセスメント能力のレベルの向上は今後の研鑽が必要な部分も見受けられた。 ・ 担当毎でのチームカンファレンスを行うことで、利用者の状況把握とケアの見直し・意識統一ができた。 ・ 広報誌「まも～る通信」を発行することができた。 ・ 利用者、居宅介護支援事業所共に満足度調査を行い、サービス向上に繋がるようにすすめた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅生活の継続のため、早期のケアの見直しを図るためには多職種連携した支援の提供を図ることが必要で、新規利用者に対しフェニックスネットの同意を勧める。また職員が同じレベルで多職種、関係機関との連携を図ることが必要であり、例えばフォーマル、インフォーマルのサービスを理解し習得していきレベルの向上に努める。 ・ 担当毎でのチームカンファレンスを継続し、利用者の状態把握を様々な方向からケアを見直し意識統一をしていく。 ・ 広報誌「まも～る通信」を定期的に発行する。 ・ 安心して在宅での暮らしが継続できる様なサービス提供に向け、利用者満足度調査を継続する。

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します